

## (a) 【海鳥繁殖地特定調査】



## (a) 【海鳥繁殖地特定調査】

### 1) 目的

2014 年及び 2015 年度の調査により、浜中町におけるオオセグロカモメ (*Larus schistisagus*) とウミウ (*Phalacrocorax Capillatus*) の営巣場所及び営巣数の変化が把握できつつある。両種とも、道東の海岸域で普通に見られるが、世界的にみると極東にのみ分布する非常に限られた種であり、北海道道東地域が日本での繁殖分布の中心である。2 年間の調査によりオオセグロカモメについては繁殖が港の外堤防に多くあり、オジロワシにより巣立ちする雛が少ないことが判明しつつある。ウミウについては小規模繁殖が減少し最大繁殖地である小島での繁殖数が増えているのが判明してきた。ケイマフリ (*Cepphus carbo*) は世界的な分布が狭く、主要な繁殖地である北海道においては激減し、現在は 1000 羽程度が生息していると言われ絶滅危惧種に指定されている。2 年間の調査により、小島や涙岬周辺において浜中町では最大 13+ペアが繁殖していることが判明した。これら生息数が減少している海鳥類が、2016 年現在、どれくらい営巣し雛が育つかを把握し、2014 年度からの 3 年間で繁殖場所や数がどう変化するかを調査により明らかにする。また海鳥に影響を与えていると考えられるオジロワシ (*Haliueetus albicilla*) については、霧多布島での繁殖ペアに着目し記録する。

### 1) 調査方法

2 年間同様に浜中町全沿岸を 3 ケ所に分け、営巣時期に小型船で航行しオオセグロカモメ及びウミウの営巣数をカウントし地図上に位置を落とす。5 月上旬から 8 月の繁殖期間に陸上からも視認し、営巣数の把握や、集団繁殖地及び数か所の少数繁殖地を選定し雛の巣立ちまでの繁殖状況をモニタリングする。ケイマフリは海上調査において生息場所を把握するとともに、陸上から繁殖状況等の確認を行う。また繁殖に影響するオジロワシ等の状況も記録する。

本年度は 5 月 23 日から霧多布島周辺で視認できる範囲のオオセグロカモメ及びウミウの営巣数の増減を記録した。また雛が生まれてからは巣立ちできる大きさに育つまでのモニタリングも行った。また小型船にて 5 月 28 日に (A) 霧多布から根室市境界まで、5 月 30 日には (B) 霧多布から琵琶瀬高台下まで、6 月 6 日には、(C) 火散布から琵琶瀬高台下及



三か所に分けた船による沿岸調査

び厚岸町境界まで 2 年間同様の調査を行った。小型船による沿岸調査においてはケイマフリの生息状況も記録し、繁殖記録のある涙岬から鯨浜及びケンボッキ島西側及び繁殖の可能性のある立岩付近の調査を 7 月 22 日及び 23 日におこなった。また霧多布岬及び小島周辺では継続して行った海鳥調査時に記録した。

### ◎結果及び考察

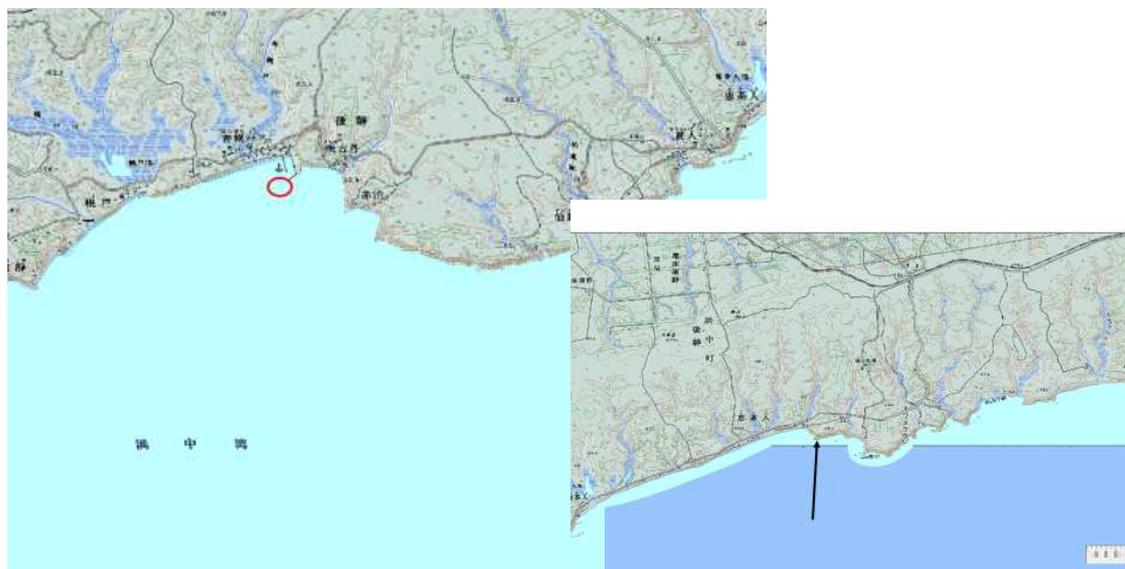
今回の浜中町調査では、オオセグロカモメ 404±巢 (2014 年 400±・2015 年 389±巢) ウミウ 528±巢 (2014 年 541±・2015 年 574±巢)・ケイマフリ 10±巢 (2014 年 10±・2015 年 13+巢) を記録した。また地図上の赤字番号の地点では状況調査を継続して行った。また繁殖に影響があると考えられるオジロワシについても出現地点及び状況を記載した。種別の各地域の営巣場所・繁殖状況及び結果と考察は以下のとおりである。

(地図上の記号番号：O→オオセグロカモメ U→ウミウ K→ケイマフリ W→オジロワシ 赤字番号は継続調査を行った場所)

#### (1) オオセグロカモメ：営巣場所及び繁殖状況 (沿岸調査及び継続調査か所)

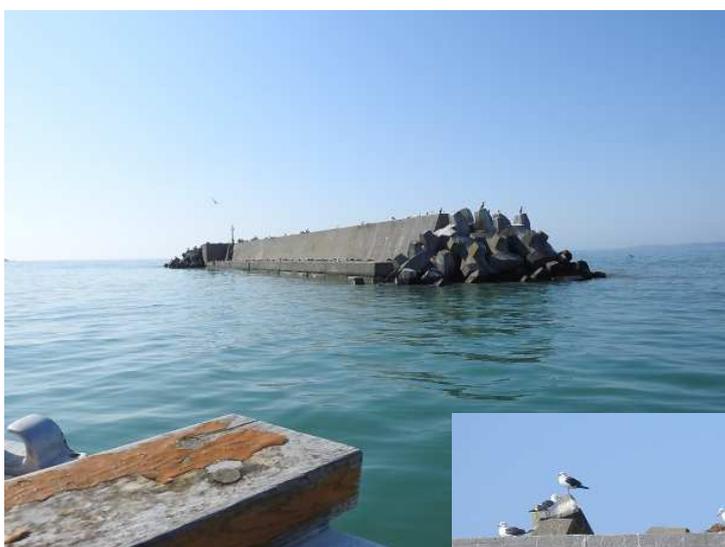
- 2014 年または 2015 年の営巣場所 
- 2015 年 2016 年共通の営巣場所 
- 2016 年のみの営巣場所 
- 2014 年～2016 年共通の営巣場所 
- 地図上の 2016 年の営巣範囲 

#### ●浜中町北部：本幌戸港の離れ堤防 1 か所のみで営巣 (2014 年 46 巢・2015 年 42 巢・2016 年 44 巢)



○1 (本幌戸港外堤防)

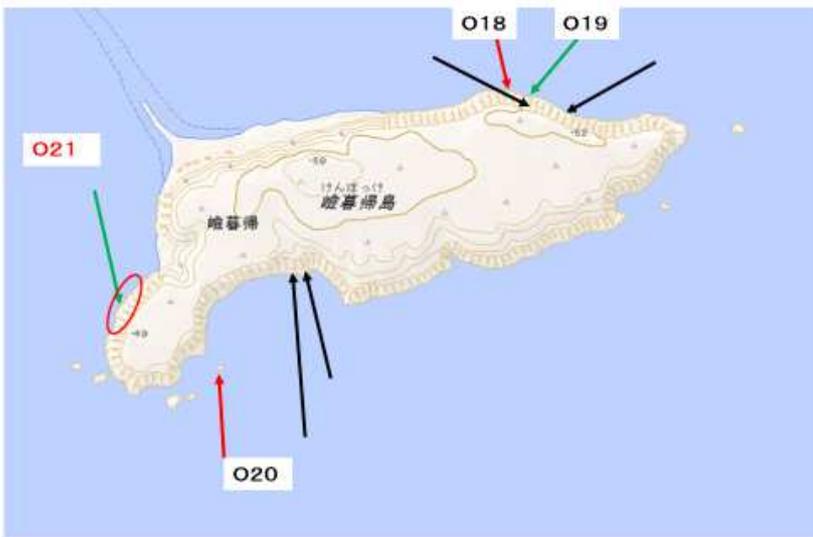
月日	状況
5月28日	44巢



●浜中町中央部：霧多布港離れ堤防や、霧多布島～ケンボッキ島周辺 20 か所で営巣  
 (2014年 352±巣・2015年 335±巣・2016年 335±巣)



番号	営巣数
O 2	241
O 3	3
O 4	1
O 5	22
O 6	1
O 7	2
O 8	1
O 9	1
O 1 0	1
O 1 1	3
O 1 2	3
O 1 3	11
O 1 4	15
O 1 5	2
O 1 6	13
O 1 7	5±
O 1 8	1
O 1 9	1
O 2 0	2
O 2 1	6
計	335±巣



〇2（霧多布港離れ堤防）繁殖状況

月日	上段営巣数	下段営巣数	合計	備考
5月13日	43	131	174 巣	
5月28日	58	176	234 巣	
6月4日	66	175	241 巣	
6月12日	63	171	234 巣	
6月24日	61	173	234 巣	雛が生まれている
	上段雛数	下段雛数		
7月3日	15 巣 1 羽	67 巣 114 羽	115 羽	親が座っている巣+見える雛
7月11日	5 巣 0 羽	30 巣 162 羽	162 羽	同上
7月20日	2 巣 0 羽	13 巣 136 羽	136 羽	同上
7月29日	0	8 巣 121 羽	121 羽	
8月8日	0	97 羽	114 羽	他に港内にいるもの 17 羽
8月17日	0	69 羽	90 羽	他に港内・グラウンド 21 羽





○3 繁殖状況

月日	状況
6月4日	3 巣
6月12日	2 巣
6月24日	0 巣



○4 繁殖状況

月日	状況
6月1日	1 巣
6月3日	0 巣



○5 (ピリカ岩) 繁殖状況

月日	状況	備考
5月18日	9+ 巣	表側8 巣+付属岩1 巣
5月30日	3 巣	裏側のみ
6月4日	19 巣	表側+付属岩のみ 裏側は不明
6月12日	15 巣	同上
6月24日	16 巣	同上
7月4日	4 巣+雛9 羽	同上
7月12日	2 巣+14 羽	同上
7月20日	雛13 羽	同上
7月24日	雛12 羽	同上



ピリカ岩と付属岩



○6 繁殖状況

月日	状況
5月18日	1 巣
7月4日	1 巣
7月11日	雛 1 羽
7月15日	雛 2 羽
8月7日	雛 2 羽



○7 繁殖状況

月日	状況
5月18日	2 巣
6月4日	0 巣



○8 繁殖状況

月日	状況
5月30日	1 巣
6月24日	1 巣
7月4日	0 巣



○9 繁殖状況

月日	状況
5月30日	1 巣
6月4日	0 巣



○10 繁殖状況

月日	状況
5月18日	1 巣
5月30日	0 巣
6月12日	1 巣
7月4日	1 巣
7月12日	雛 1 羽
7月24日	雛 1 羽
8月7日	雛 0 羽



### ○11 繁殖状況

月日	状況	備考
5月18日	1 巢	陸側
5月30日	1 巢	海側
6月4日	1 巢	海側、陸側 0 巢
6月12日	2 巢	以降海側のみ
6月24日	2 巢	
7月4日	雛 4 羽	
7月12日	雛 1 羽	
7月24日	雛 1 羽	
8月7日	雛 0 羽	



### ○12 繁殖状況

月日	状況
5月30日	3 巢
6月4日	2 巢
6月12日	1 巢
6月24日	3 巢
7月4日	1 巢
7月12日	0 巢



### ○13 繁殖状況

月日	状陸	備考
5月18日	8 巢	陸側
5月30日	2 巢	海側
6月4日	9 巢	陸側、海側 0
6月12日	7 巢	以降陸側
7月4日	2 巢雛 9 羽	
7月12日	雛 6 羽	
7月24日	雛 4 羽	
8月7日	雛 2 羽	



#### 014 繁殖状況

月日	状陸	備考
5月18日	4 巢	陸側
5月30日	11 巢	海側
6月4日	2 巢	以降陸側
6月12日	3 巢	
6月24日	0 巢	
7月4日	雛 5 羽	海側の雛
7月12日	雛 6 羽	
7月20日	雛 4 羽	
7月24日	雛 4 羽	
8月4日	雛 0 羽	



#### 015 繁殖状況

月日	状況
5月18日	1 巢
6月4日	2 巢
6月24日	2 巢
7月4日	0 巢



#### 016 繁殖状況

月日	状況	備考
5月18日	3 巢	陸側
5月30日	10 巢	海側
6月4日	2 巢	以降陸側
6月12日	2 巢	
6月24日	1 巢	
7月4日	0 巢	



○17 (小島) 繁殖状況

月日	状況	備考
5月18日	5+巣	上部の推定数 以降雛確認なし



○18 繁殖状況

月日	状況
5月30日	1巣



○19 繁殖状況

月日	状況
5月30日	3巣



## ○20 繁殖状況

月日	状況
5月30日	1 巢



## ○21 (ケンボッキ島西側) 繁殖状況

月日	状況
5月30日	6 巢
6月12日	0 巢



●浜中町南部：岩礁の4か所で営巣

(2014年2巣・2015年12巣・2016年25巣)

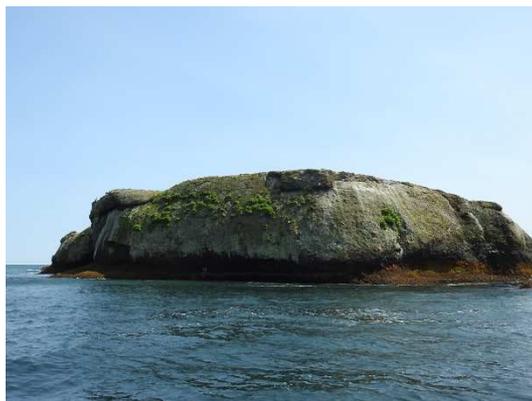


番号	営巣数
O22	2
O23	1
O24	2
O25	20
計	25 巣



○22 (窓岩) 繁殖状況

月日	状況
6月6日	2巢



○23 繁殖状況

月日	状況
6月6日	1巢



○24 繁殖状況

月日	状況
6月6日	2巢



○25 (涙岬付近) 繁殖状況

月日	状況
6月6日	20巢



## ○オオセグロカモメ結果と考察

浜中町全体のオセグロカモメ繁殖調査では、2014年 400±巣、2015年 389±巣の営巣が記録された。2016年も同様な調査を行った結果 404±巣が記録され、3年間の営巣数に大きな変化がない結果が得られた（表 1）。営巣場所及び営巣か所数も3年間で大きな変化はなく、大規模繁殖地も前年同様に本幌戸港（44 巣）と霧多布港（241 巣）の外堤防にあり、全体のおよそ 70 パーセントが集中していた（表 2・表 3）。

本年度も繁殖状況を調べるため、霧多布島からケンボッキ島周辺の 17 か所で継続調査を行った（中央部表の赤番号）。小規模繁殖地として 12 か所（表 4）、中規模繁殖地として 4 か所（表 5）、大規模繁殖地として霧多布港 1 か所（表 6）で行い繁殖状況調査を行った。小規模繁殖地においては、本年度も育った雛は 4 羽とごく少なかった。中規模での雛は 2 年間よりやや多くなったが、全体の営巣数が少ないのでわずかな増加にとどまった。しかし、当地の最も重要な大規模繁殖地の霧多布港離れ堤防での雛は大幅に多くなった。2014年の堤防上段は最大 56 巣、下段は 178 巣の計 234 巣、2015年は上段 56 巣、下段 176 巣の計 228 巣、2016年は上段 66 巣、下段 175 巣の計 241 巣と営巣数に大きな変化はなかった。6月下旬から雛が生まれ始めたが、上段は 7月 29日には雛は 0 羽となり下段のみになってしまった。上段はオジロワシの攻撃が受けやすいことが原因の一つとして考えられる。8月中旬まで残った雛は 131 羽と過去 2 年より大幅に多くなった。2015年に港に近い霧多布島の植林地に出入りしていたオジロワシのペアは、本年度も繁殖したが港ではなく小島のウミウを中心に狩りをしていった。本年度も港にオジロワシの姿が見られたが、このペアではなく別の個体であることが判明した。霧多布島で繁殖するペアが狩場を港から小島に変えたことがオオセグロカモメの雛が多く育った理由とも考えられるが、今後も調査が必要であろう。

※表 1. 営巣数

調査年	北部	中央部	南部	合計巣
2014年	46	352±	2	400±巣
2015年	42	335±	12	389±巣
2016年	44	330±	25	404±巣

※表 2. 営巣か所

調査年	北部	中央部	南部	合計か所
2014年	1	20	1	22 か所
2015年	2	23	4	29 か所
2016年	1	20	4	25 か所

※表 3. 規模別営巣か所（小 10 巣以下・中 10～30 巣・大 30 巣以上）

調査年	北部			中央部			南部		
	小	中	大	小	中	大	小	中	大
2014 年	0	0	1	13	6	1	1	0	0
2015 年	1	0	1	16	6	1	4	0	0
2016 年	0	0	1	15	4	1	3	1	0

※表 4. 小規模繁殖地の状況

調査年	調査巣の数	育った雛の数	1 巣から雛が育った割合
2014 年	17 巣	2 羽	0.11 羽
2015 年	27 巣	1 羽	0.04 羽
2016 年	29 巣	4 羽	0.13 羽

※表 5. 中規模繁殖地の状況

調査年	調査巣の数	育った雛の数	1 巣から雛が育った割合
2014 年	56 巣	3 羽	0.05 羽
2015 年	75 巣	9 羽	0.12 羽
2016 年	61 巣	18 羽	0.29 羽

※表 6. 大規模繁殖地の状況

調査年	調査巣の数	育った雛の数	1 巣から雛が育った割合
2014 年	234 巣	63 羽	0.27 羽
2015 年	228 巣	11 羽	0.05 羽
2016 年	241 巣	131 羽	0.54 羽

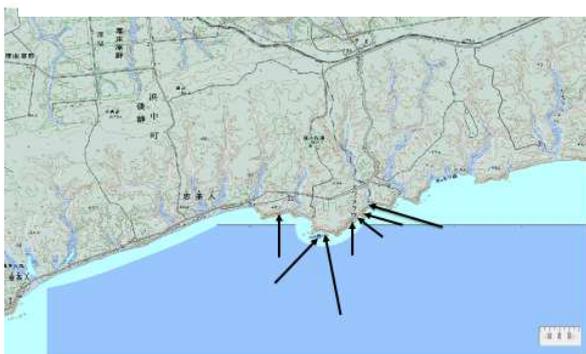
(2) ウミウ：営巣場所及び繁殖状況（沿岸調査及び継続調査）

- 2014年または2015年の営巣場所 →
- 2015年2016年共通の営巣場所 →
- 2016年のみの営巣場所 →
- 2014年～2016年共通の営巣場所 →

●浜中町北部：二ツ岩～根室市境界の2か所で営巣  
 (2014年128巣・2015年60巣・2016年17巣)



番号	営巣数
U 1	9 巣
U 2	8 巣
計	17 巣



U 1

月日	状況
5月28日	9 巣

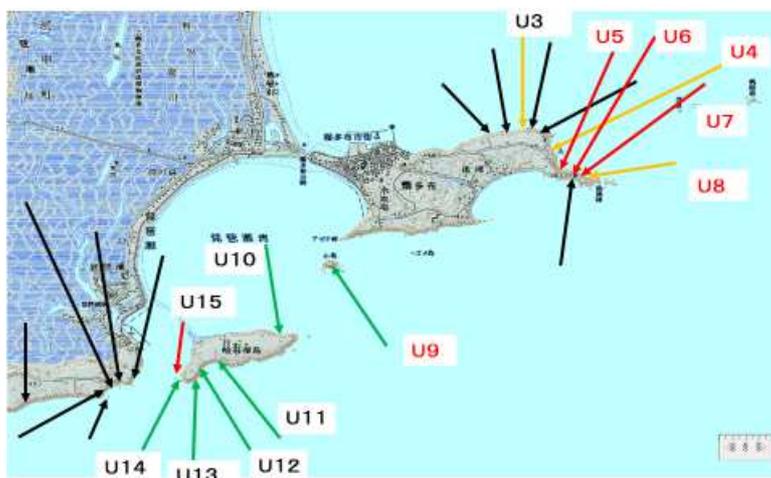


U 2 (二ツ岩)

月日	状況
5月28日	8 巢



●浜中町中央部：霧多布島～琵琶瀬高台下の 13 か所で営巢  
(2014 年 349± 巢・2015 年 428± 巢・2016 年 434± 巢)



番号	営巢数
U 3	9
U 4	5
U 5	9
U 6	2
U 7	3
U 8	47
U 9	296±
U 1 0	3
U 1 1	1
U 1 2	15
U 1 3	17
U 1 4	9
U 1 5	18
計	434± 巢

U 3

月日	状況
5月30日	9 巢



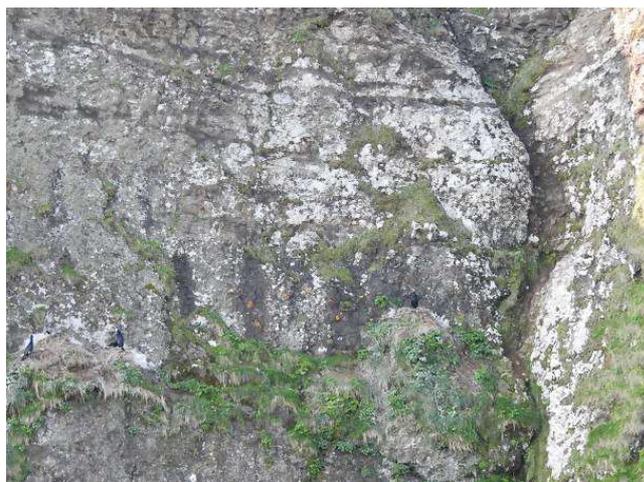
#### U 4

月日	状況
5月30日	5 巢
6月4日	5 巢
6月12日	5 巢
6月24日	4 巢 雛
7月4日	2 巢 雛 2 羽
7月11日	雛 6 羽
7月20日	0 羽



#### U 5 繁殖状況

月日	状況
5月18日	9 巢
5月29日	4 巢 雛
5月30日	3 巢 雛
6月12日	1 巢 雛
6月24日	1 巢 雛
7月4日	0 巢



#### U 6 繁殖状況

月日	状況
5月30日	1 巢
6月4日	1 巢
6月12日	2 巢
6月24日	1 巢
7月4日	0 巢



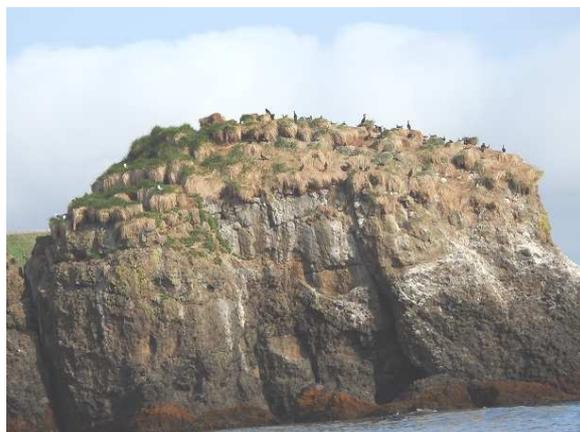
## U7 繁殖状況

月日	状況
5月29日	2 巣
6月1日	2 巣
6月12日	2 巣
6月24日	3 巣
7月4日	2 巣 雛 3 羽
7月11日	雛 0 羽



## U8 (ピリカ岩) 繁殖状況

月日	状況	備考
5月18日	27 巣	陸側
5月29日	27 巣	同上
5月30日	20 巣	海側 合計 Max47 巣
6月12日	27 巣	以降陸側
6月24日	23 巣	
7月4日	成幼合わせ 92 羽	
7月15日	成幼合わせ 105 羽	
7月20日	成幼合わせ 104 羽	



海側

陸側



U9 (小島・断りがない限り北側のみ) 繁殖状況

月日	状況	備考
5月13日	155±巢	北側
5月21日	141巢	南側の数 北側と南側の総数 Max296±巢
5月29日	147±巢 雛	
6月4日	127±巢 雛	
6月12日	98±巢 雛	オジロワシ成1羽
6月24日	62巢 雛	オジロワシ10羽
6月25日	成幼合わせ 133±羽	下の岩礁に幼21羽降りている
6月27日	成幼合わせ 170+羽	下の岩礁に幼17羽
7月4日	成幼合わせ 196羽	湯沸山のオジロ成2羽が狩場とし小島占領す
7月11日	成幼合わせ 164羽	
7月15日	成幼合わせ 183羽	
7月20日	成幼合わせ 170羽	
7月21日	成幼合わせ 81羽	下の岩礁に幼鳥が主で90+羽
7月24日	幼7羽のみ	下の岩礁に幼鳥が主で107羽





小島  
コロニー

小島下岩礁  
の幼鳥  
右岩にオジ  
ロワシ



U 1 0 繁殖状況

月日	状況
5月30日	3 巢



U 1 1 繁殖状況

月日	状況
5月30日	1 巢



U 1 2 繁殖状況

月日	状況
5月30日	15 巢



### U 1 3 繁殖状況

月日	状況
5月30日	17 巢



### U 1 4 繁殖状況

月日	状況
5月30日	9 巢



### U 1 5 繁殖状況

月日	状況
5月30日	18 巢



●浜中町南部：散布～鯨浜の5か所に営巣

(2014年64巣・2015年86巣・2016年77巣)



番号	営巣数
U16	5
U17	7
U18	24
U19	41
計	77巣

U16 繁殖状況

月日	状況
6月6日	5巣



U17 繁殖状況

月日	状況
6月6日	7巣



## U18 繁殖状況

月日	状況
6月6日	5 巢



## U19 繁殖状況

月日	状況
6月6日	41 巢



## ○ウミウ結果と考察

3か所に分けた浜中町全体のウミウ繁殖調査では、2014年541±巢、2015年574±巢が記録された。2016年も同様な調査を行った結果528±巢が記録され（表1）、やや減少していることが判明した。とくに北部では営巣数が減少し小規模のコロニーになっていた。中央部や南部は営巣数に大きな変化はなかったが、小島では2014年204巢、2015年260巢、2016年296巢と、集中する傾向にあった。

3年間の調査により、営巣か所も北部での減少が目立っている（表2・表3）。中央部においては営巣する場所の変化が大きい傾向にある。霧多布島においては、2014年は霧多布島北部や灯台南側下に多く6か所で61巢、2015年は岬北部の崖で多く5か所で89巢、2016年はピリカ岩で営巣が多く6か所75巢であった。このように営巣場所が年により大きく変化していることが判明した。大繁殖地の小島においても、2014年に比べ2015年は北側南側とも移動しコロニーをつくっていることが判明したが、2016年では北側は再び2014年同様の場所に、南側は左右の2か所に分かれて営巣した。こちらも頻繁にオジロワシに攪乱さ

れていることがその原因として考えられる

本年度も繁殖状況を調べるため、霧多布島周辺及び小島の6か所で継続調査を行った（中央部表の赤番号）。本年度は、視認可能な霧多布岬の北部の崖にある小規模4か所（表4）及び中規模のピリカ岩（表5）、大規模な小島北側（表6）において随時調査を行った。その結果、霧多布岬北部崖では4か所20巣あったが、2か所は7月4日には0巣となり失敗したと考えられた。1巣は7月11日に雛6羽がいたが7月20日には0となっていたが、巣立った可能性がある。もう1巣は7月4日に雛3羽が見られていたが7月11日は0となっていた。こちらは失敗した可能性が高いと考えられた。これらの結果から、小規模な繁殖地は失敗することが多いことが示唆された。中規模のピリカ岩では陸側27巣海側20巣と3年間で最大数が営巣した。継続観察できる陸側の調査では、7月15日には成幼合わせ105羽が見られた。オジロワシの攪乱が見られず順調に繁殖できたようであった。小島北側では5月13日に155巣があり、5月29日でも147巣が繁殖中で雛の姿が初認された。本年度はオジロワシが6月24日には10羽が見られ62巣に減少していた。6月25日には早くも下の岩礁に幼鳥が21羽降りていたのが見られている。7月に入ると湯沸山で繁殖しているオジロワシ成2羽が他のオジロワシを追い出し占領した。7月24日には小島上には幼鳥7羽のみとなり下の岩礁に主に幼鳥の107羽がいた。このことから100羽士の幼鳥が育ったと考えられた。2014年の北側推定幼鳥は120羽、2015年200羽であるところから、本年度の繁殖はやや悪い結果となったが、大規模繁殖地のほうが繁殖には有利だとも考えられる。来年以降も、ウミウの繁殖場所がどう変化していくか、またオジロワシの影響についても引き続き着目していく必要がある。

※表1. 営巣数

調査年	北部	中央部	南部	合計巣
2014年	128	349+	64	541+巣
2015年	60	428±	86	574±巣
2016年	17	434±	77	528±巣

※表2 営巣か所

調査年	北部	中央部	南部	合計か所
2014年	9	15	5	22か所
2015年	3	15	3	21か所
2016年	2	13	4	19か所

※表 3. 規模別営巣か所（小 10 巣以下・中 10～60 巣・大 60 巣以上）

調査年	北部			中央部			南部		
	小	中	大	小	中	大	小	中	大
2014 年	1	8	0	8	6	1	3	2	0
2015 年	0	3	0	9	5	1	0	3	0
2016 年	2	0	0	8	4	1	2	2	0

※表 4. 小規模繁殖地の状況

調査年	調査巣の数	大きな雛が残った巣
2014 年	16 巣	0 巣
2015 年	27 巣	2 巣
2016 年	19 巣	2±巣

※表 5. 中規模繁殖地の状況

調査年	調査巣の数	大きな雛が残った巣
2014 年	60 巣	5 巣
2015 年	74 巣	19 巣
2016 年	47 巣	20+巣

※表 6. 大規模繁殖地の状況（小島）

調査年	調査巣の数	大きな雛が残った巣
2014 年	南北合わせ 204+巣	不明だが北側営巣地だけで 120±羽の雛が育った と考えられる
2015 年	南北合わせ 260±巣	不明だが北側営巣地だけで最低でも 200 羽以上の 雛が育ったと考えられる
2016 年	南北合わせ 296±巣	不明だが北側営巣地だけで 100±羽の雛が育った と考えられる。

(3) ケイマフリ：営巣場所及び繁殖状況

(2014年 10+巣 2015年 13+巣 2016年 10+巣)

- 2014年または2015年の営巣場所 →
- 2015年2016年共通の営巣場所 →
- 2016年のみの営巣場所 →
- 2014年～2016年共通の営巣場所 →

●船調査による海上での確認数

場所	数
A	6羽
B	1羽
C	4羽
D	1羽
E	2羽



●浜中町中央部：霧多布島～ケンボッキ島 (2014年 3+巣 2015年 4+巣 2016年 1+巣)



生息地記号	最大観察数	営巣地番号	営巣数	備考
A	8		未繁殖	ピリカ岩上陸及び亀裂出入りのみ
B	17	K 1	1+	2016年の営巣数不明、繁殖失敗か
C	3		0	2014～15年繁殖 2016年未繁殖

**A**：霧多布岬海域

過去の繁殖場所であったピリカ岩周辺では2014年最大7羽、2015年最大10羽、2016年8羽のケイマフリが見られた。海上デコイへの接近や、ピリカ岩の亀裂に出入りするものが3年つづき見られたが本年度も繁殖はなかった。5月～8月までこの海域では調査日の86パーセントで見られ、平均は2.6羽であった。



ケイマフリが出入りしているピリカ岩の亀裂



海上デコイに寄るケイマフリ

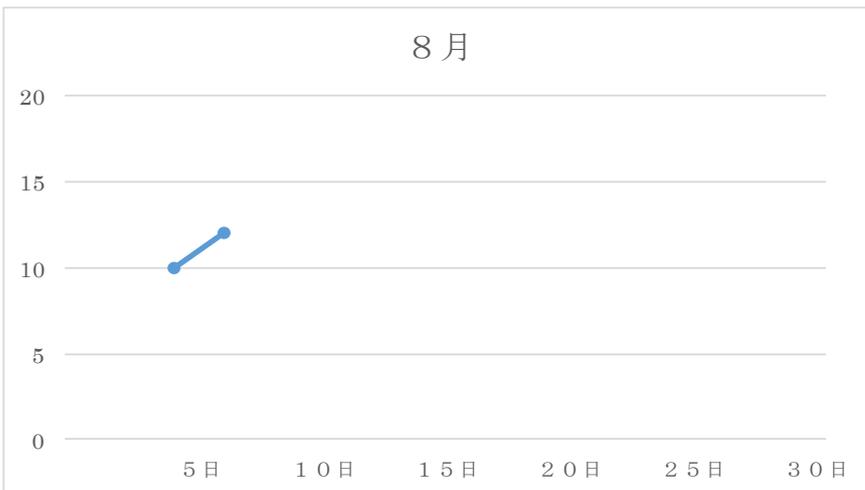
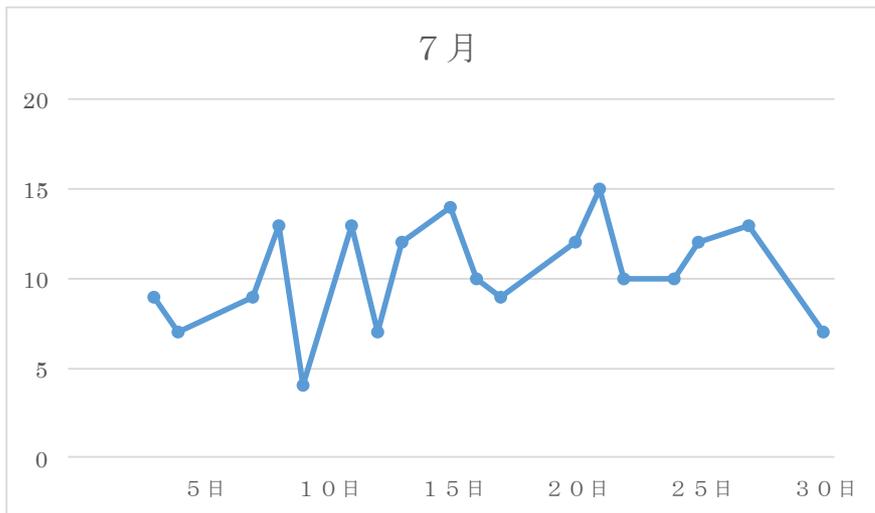
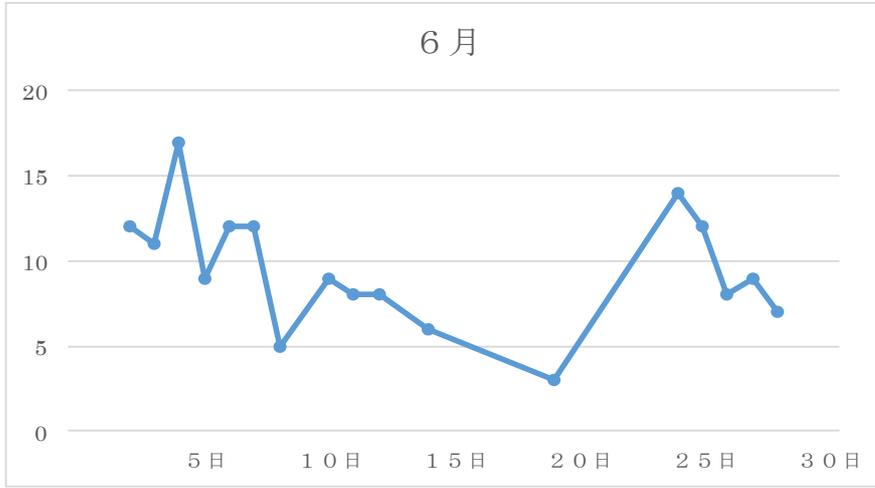
## B：小島海域

### 小島のケイマフリ営巣場所



小島では2014年最大13羽、2015年最大22羽、2016年には6月4日に最大数になる17羽が見られている。巣は例年通り南側亀裂にあると考えられるが、見えない区域であることから繁殖行動は餌運びによる確認しかできない。飛来数から例年通りのペア数がいたと考えられるが、本年は餌運びが6月26日1回、7月21日に1回の計2回しか確認できなかった。1ペア+が繁殖したことは間違いないと考えられるが、本年度は最終的には繁殖が失敗したと考えられた。小島では近年順調に繁殖が続いていたが、このような結果になった原因は不明であり、来年以降の繁殖状況を注視していく必要がある。

小島海域でのケイマフリ確認数



**C** : ケンボッキ島付属岩

2014年及び2015年は1ペアが繁殖していた。本年度は7月23日～24日に調査を行ったが、23日2羽、24日に3羽が500m沖にいただけで餌運びは確認できなかった。



●**浜中町南部** : 散布～鯨浜 南部Dは6月6日に海上から生息調査を行ったが、波により正確な生息数は把握できなかった。鯨浜及び涙岬付近の繁殖確認は7月22日～23日に行なった。また繁殖の可能性のある立岩付近の調査を7月23日に行なった。

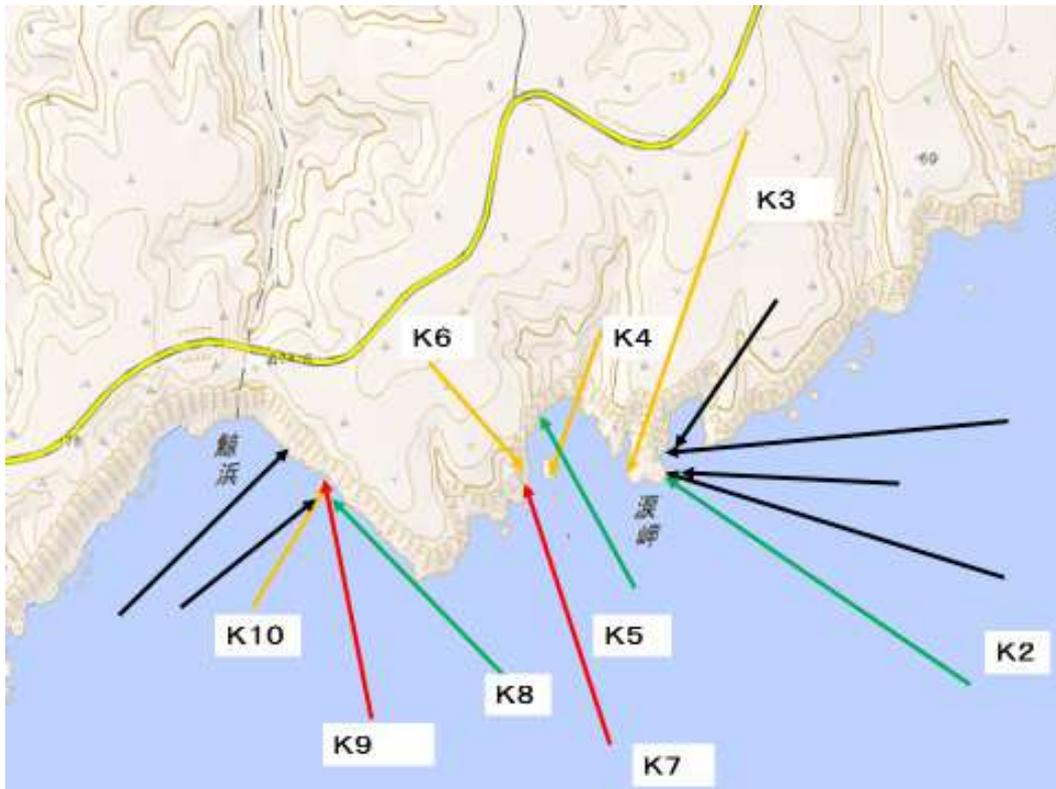
(2014年7巢 2015年9巢 2016年9巢)



2016年度の陸上からの最大確認数

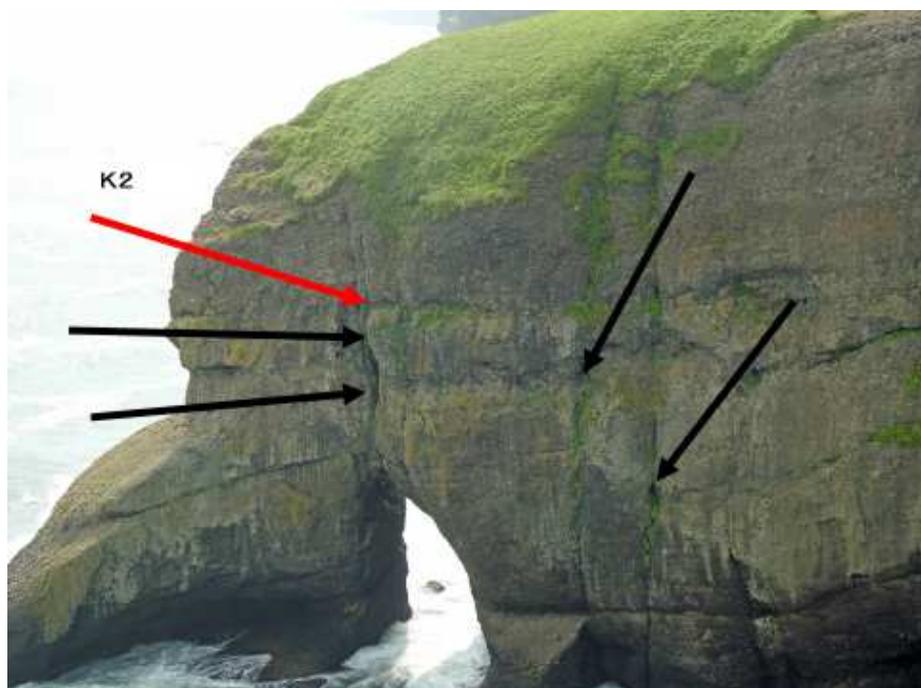
鯨浜～涙岬 20羽

立岩付近 12羽 (涙岬からも飛来しているのも含む)



生息地記号	営巣地番号	備考
D	K 2	2014 年～2016 年の 3 年続き
	K 3	2014 年及び 2016 年
	K 4	2015 年及び 2016 年
	K 5	2014 年～2016 年の 3 年続き
	K 6	2015 年及び 2016 年
	K 7	新たな巣
	K 8	2014 年～2016 年の 3 年続き
	K 9	2015 年及び 2016 年
	K 1 0	2015 年及び 2016 年
2014 年のみの巣 3 か所、2015 年のみの巣 3 か所		

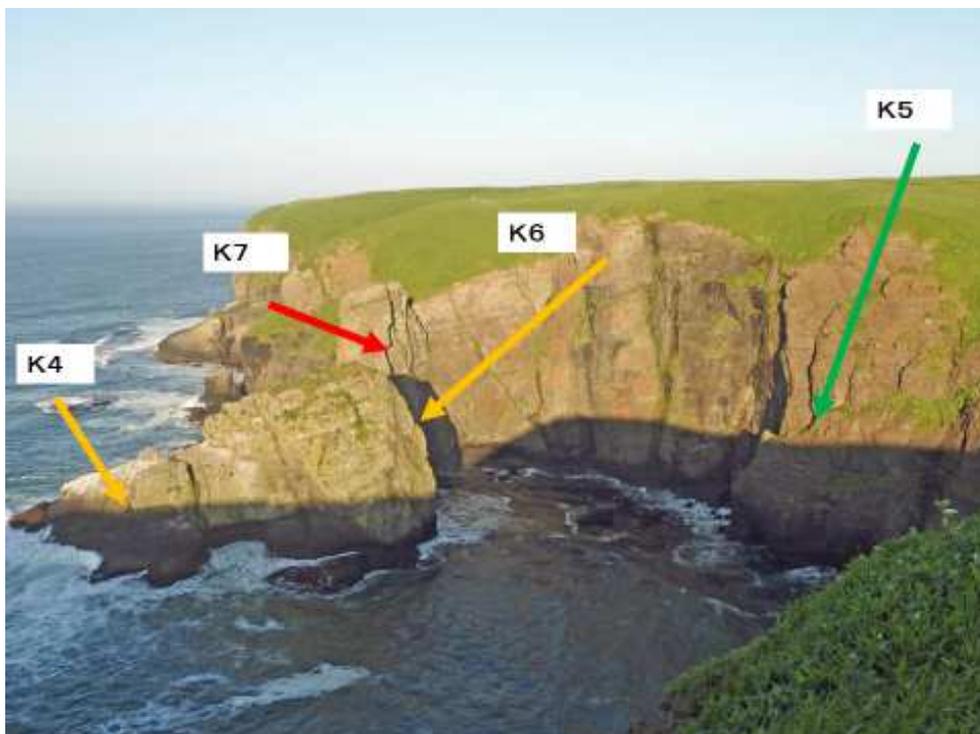
涙岬



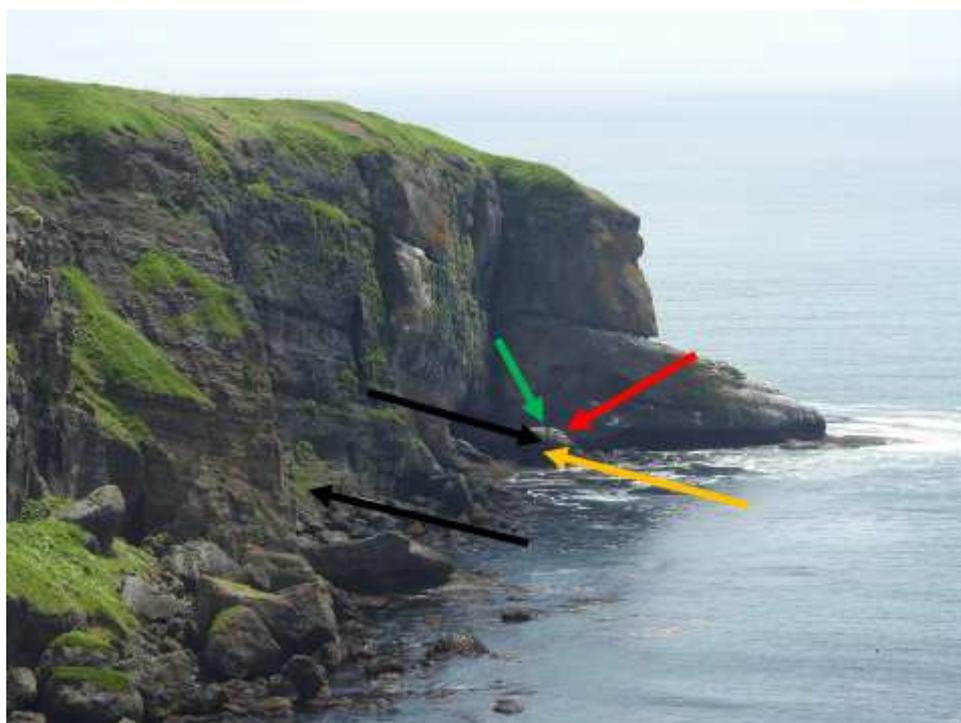
涙岬の西側①



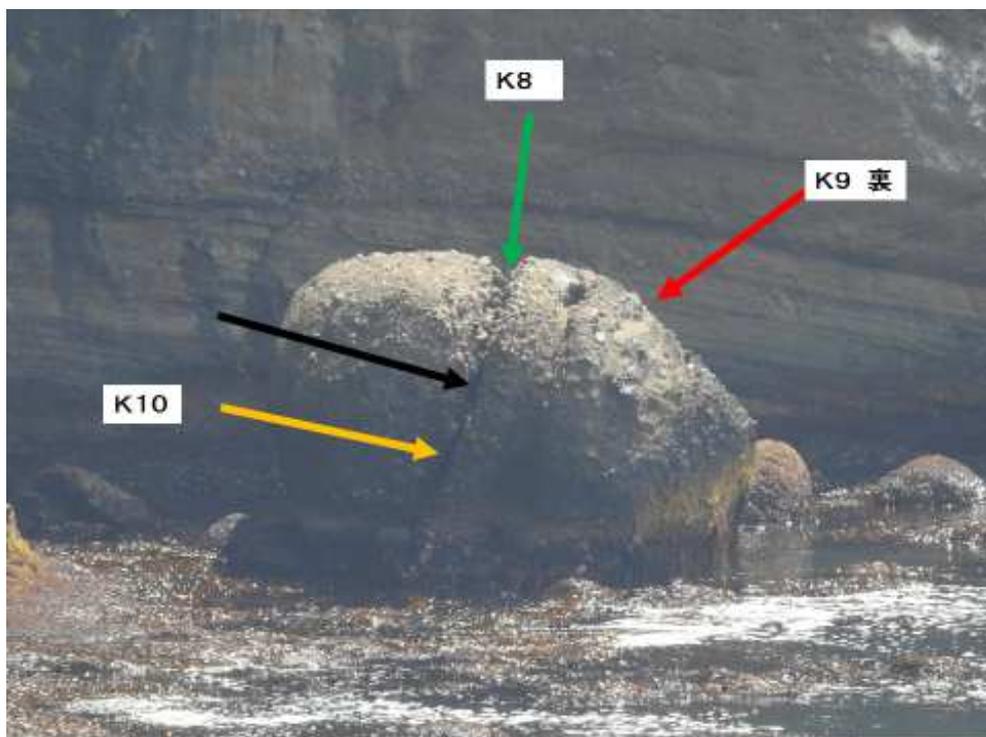
涙岬の西側②



鯨浜①



鯨浜②



立岩付近



## ○ケイマフリ結果と考察

浜中町全域での繁殖確認は2014年10+、2015年13+であったが、2016年の調査では10+であった。霧多布岬のピリカ岩では本年度も頻繁に鳴きあい上陸や亀裂への出入りがあったが本年も繁殖まではいかなかった。アゼチの岬より小島海域周辺の調査では、餌運びが2回しか見られず繁殖失敗したと考えられ、繁殖に至ったペア数は不明であり暫定的に1+とした。小島では2006年から2015年まで繁殖が確認されており、このような結果に至った原因は不明であり引き続きの調査が必要である。ケンボッキ島西側岩でも2014年、15年繁殖が確認されていたが2016年は確認できなかった。涙岬から鯨浜では2014年7巣で餌運びが確認され、2015年は9巣が確認できた。2016年も9巣で餌運びが確認できたが、涙岬では1巣のみとなった。3年間の調査で繁殖確認できないか所が6巣あったが、途中での繁殖失敗の可能性もあり、引き続きの確認が必要である。また2016年度は繁殖の可能性のある立岩付近の陸上調査を行った。陸上からの確認数は最大12羽であったが、涙岬方面から餌を捕りに来ている個体もあった。当地では餌運びは確認できなかったが、崖から鳴き声をするのが確認でき、将来に繁殖が期待できると考えられた。3年間の調査によりケイマフリの繁殖か所は年により確認できない所があった。これは実際に繁殖ペアがいなくなったのか、その年に失敗していただけなのか、継続調査により確認していく必要があると考える。



(4) 海鳥に影響を与えているオジロワシの生息状況

●船による沿岸調査時の確認場所及び羽数 (2014年 14羽 2015年 14羽 2016年 19羽)

北部 5月28日、中央部 5月30日、南部 6月6日に調査

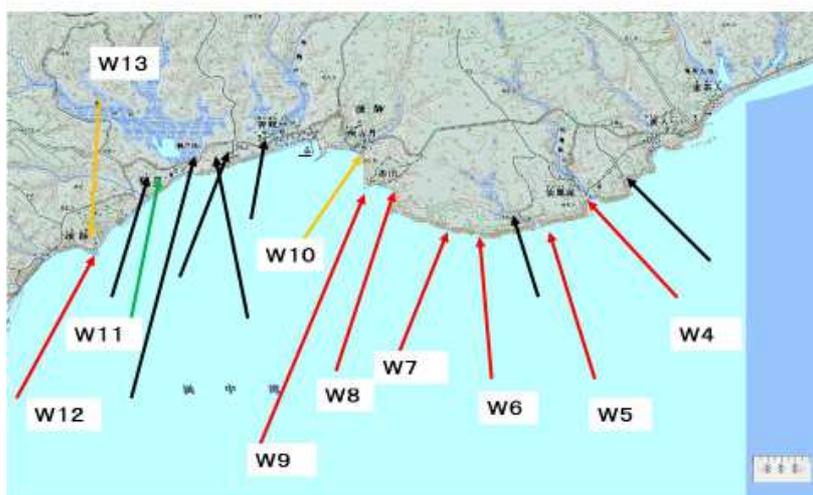
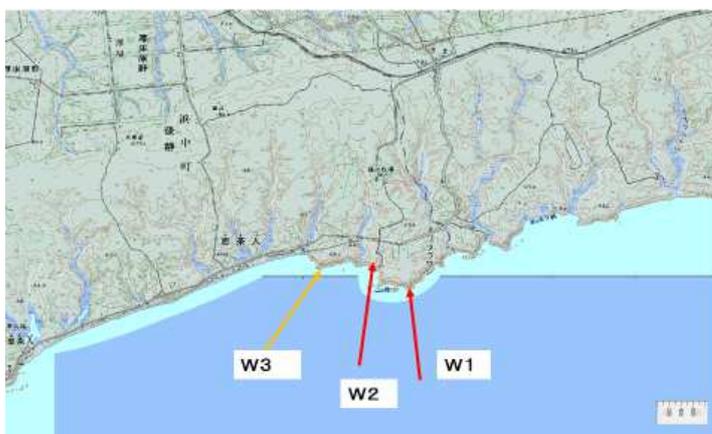
2014年または2015年の生息か所 

2015年 2016年共通の生息か所 

2016年のみの生息か所 

2014年～2016年共通の生息か所 

北部 (2014年 8羽 2015年 5羽 2016年 15羽)

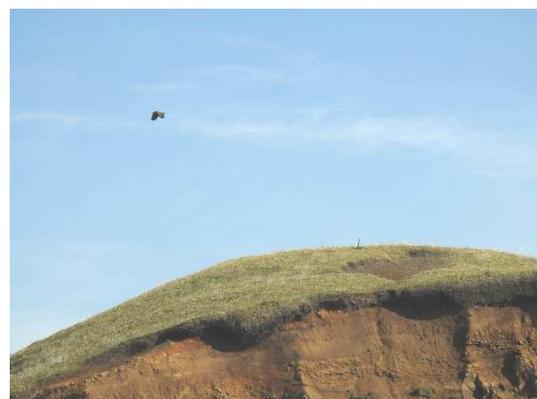
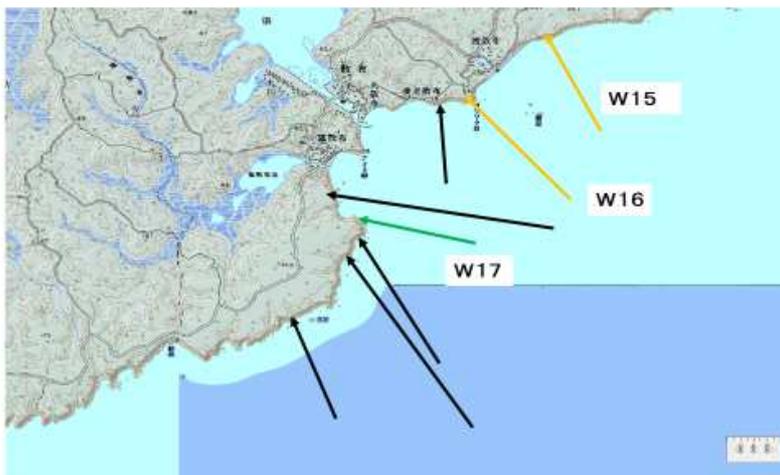


番号	数
W 1	2
W 2	1
W 3	1
W 4	1
W 5	1
W 6	1
W 7	1
W 8	1
W 9	1
W 1 0	2
W 1 1	1
W 1 2	1
W 1 3	1
W 1 4	1
W 1 5	1
W 1 6	1
W 1 7	1
計	19羽

中央部 (2014年 3羽 2015年 2羽 2016年 1羽)



南部 (2014年 3羽 2015年 7羽 2016年 3羽)

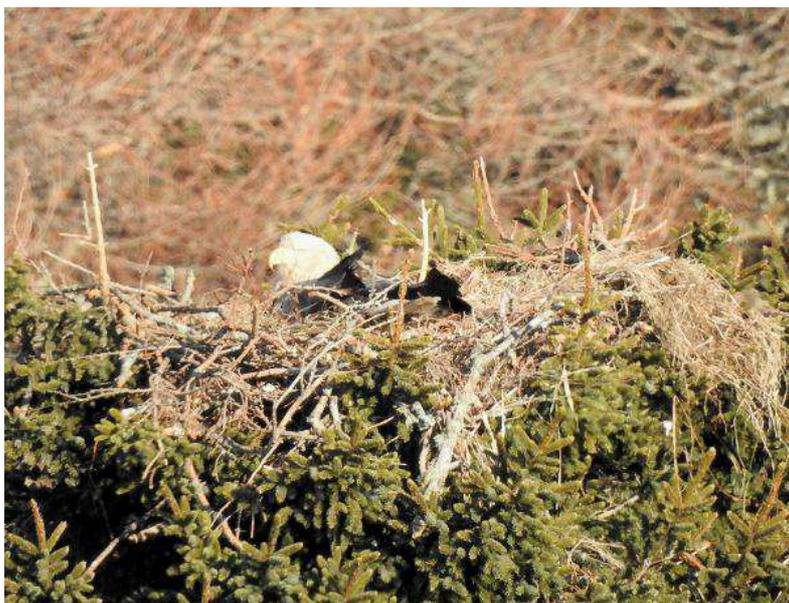


●霧多布島湯沸山繁殖ペア

2015年11月霧多布島植林地にてオジロワシの使用済みの巣を発見した。オジロワシによる海鳥への影響を調査するため、2016年は当地での繁殖に着目し調査を行ったが、実際に繁殖したのは2015年に発見した巣の北側にある針葉樹の天辺であった。



3月22日：すでに1羽が巣に座っており抱卵中と考えられた。



4月22日：雛が孵化したと考えられた。

5月6日：白い雛2羽が見られた。



5月29日：雛2羽が幼鳥といえるほどに大きくなっていた。



6月11日：運んで来た餌は身を取って捨てられたと考えられるサケ類であった。



6月24日：ウミウ幼鳥を餌として運んできた。



6月25日：小島のウミウを襲うオジロワシ成鳥



7月13日：幼鳥も大きく成長し親も離れることが多い。



7月16日：幼鳥は巣から出ることがあるようになった。（巣には1羽しか残っていない）



7月20日：親が2羽共小島で狩りをする。大きくなったウミウの幼鳥は一部食べ軽くしてから運んでいた。



8月4日：巣立った幼鳥



## オジロワシ結果と考察

船による海上からの視認では、本年度は 19 羽のオジロワシが崖上や飛来中で確認され 3 年間で最も多く見られた。特に北部で多く 15 羽が観察された。北部ではウミウの営巣が減少しているが、オジロワシの増加が理由の可能性もある。オオセグロカモメの最大繁殖地である霧多布港では本年度もオジロワシが見られた。しかし、2015 年度に比べると幼鳥の巣立ちが多く見られた。このことから本年度はオジロワシの繁殖ペアが狩場として利用しなかった可能性もあると考えられた。ケンボッキ島のウミネコは特にオジロワシの影響が高く、本年度は繁殖初期からオジロワシが多数集まり、コロニーがごく小さくなり早期に繁殖失敗し数ごく少数となった。この影響から来年度以降にケンボッキ島にどの程度のウミネコが集まるか注視していく必要がある。ウミウのいる小島では 2015 年に比べ 2016 年は幼鳥の数が半分程度に減少した。この原因は霧多布島で繁殖したオジロワシが親や雛の餌として小島のウミウを多く利用していたことが考えられる。小島には 6 月中旬にオジロワシが集まるようになった。最大数は 6 月 24 日には成 5 若 5 の計 10 羽であった。しかし 7 月に入ると成鳥 1 羽～2 羽が小島を占領するようになり、飛来してくる若鳥を追い払う行動が見られた。6 月 24 日には巣にいる雛の餌としてウミウの幼鳥を与えているのが観察された。7 月 8 日には小島において雄がウミウ幼鳥を捕獲し一部を食べた後、飛来した雌に譲ることが見られた。雌も一部食った後に足で掴み運ぼうとしたが重いためか海に落としてしまった。7 月 20 日には 2 羽で狩りをし、小島からウミウ幼鳥を掴んだ親が霧多布島の巣に運んだのも確認された。霧多布島の親と考えられる 2 羽の小島占領はウミウの幼鳥が島の上部にいなくなる 8 月上旬まで続いた。繁殖ペアが主な狩場として小島を利用する場合、他のオジロワシを追い出し独占することが判明した。当地のオジロワシはオオセグロカモメ・ウミネコ・ウミウの特に幼鳥を餌とすることが多いことが分かりつつあり、これら海鳥の繁殖に多大な影響を与えているのは間違いないだろう。今後、海鳥がさらに減少することも考えられ、その状況でオジロワシとの関係がどうなっていくか注視していく必要がある。